

これからの 「仕事」の 話をしよう



令和5年度 山形大学 基盤共通教育の授業
「キャリア形成とワークライフバランス(山形から考える)」

《 講義内容 》

- | | | |
|------------------------------|--------|--------------------------|
| 01 経験するための機会と男女の意識の違い | 高橋 真枝 | 山形市企画調整部長兼男女共同参画センター所長 |
| 02 チャンスは誰にでも平等にある | 黒谷 玲子 | 学術研究院准教授(理工学研究科担当) |
| 03 進んだ先で何をするか | 並河 英紀 | 学術研究院教授(理学部担当) |
| 04 「好きなこと」をキャリアに | 荒木 志伸 | 学術研究院教授(学士課程基盤教育院担当) |
| 05 仕事と家庭の充実のために | 山口 弘太郎 | アイジー工業株式会社研究開発部商品開発第2チーム |
| 06 自分の「好き」「なりたい」を貫くこと、挑戦すること | 佐々木 由佳 | 学術研究院准教授(農学部担当) |
| 07 助産学でのキャリア形成と良いワークライフバランス | 手塚 美春 | 学術研究院助教(医学部看護学科担当) |
| 08 学校現場以外からの教育支援 | 鈴木 貴子 | 学術研究院准教授(教育実践研究科担当) |
| 09 差別について理解し、人の痛みをわかる人に | 中村 文子 | 学術研究院准教授(人文社会科学部担当) |

経験するための機会と男女の意識の違い

10月11日(水) 14:40~16:10

講師

高橋 真枝

山形市企画調整部長兼男女共同参画センター所長

Profile

50歳代
山形県出身

山形市役所1992年採用。教育委員会管理課長を経て2022年度より現職。これまで主に教育委員会のほか産業振興の業務を担当。趣味はソコ旅。

●就職した動機と仕事の内容

東北大学に入学し、国際金融論を学んだ。大学卒業後の進路として関東で一人で生活していくことも考えていたが、両親の助言から地元へ戻り、山形市役所へ就職した。様々な分野を経験し、現在は、男女共同参画のまちづくりに尽力している。

●これまでの道のり

企業側の採用意欲は男子学生と女子学生とで異なっており、採用に関して男女の均等な扱いは努力義務だと言われていた。そのような状況下で、山形市役所に就職した後、生活福祉課や農政課、教育委員会など様々な分野に携わってきた。平成7年に公務員の男性と結婚し、2人の子どもを出産した。育児と仕事との両立に苦戦し、仕事に力を注ぐことができない時期もあったが、周囲の方々の協力を得ながらキャリアを積んできた。

●ワーク・ライフ・バランス

仕事については責任感を持ってやりがいを感じながら働き、家庭内では、掃除や洗濯、食事づくりに子どもの送迎、娘としての介護もしている。個人の時間があるときには1人旅行に行くこともある。これまで「仕事」<「家事」が当たり前だと思っていたが、今ではこの形は「アン」バランスなものであると感じている。

近年では、女性が結婚相手に求める条件として、家事・育児の能力が問われているようになってきている。男女が互いに補い合っていくことがワークライフバランスの向上につながる。

●夢や目標

現在、「第4次いきいき山形男女共同参画プラン」のもと、「男女共同参画のまち山形」の実現を目指している。また、男女共同参画センター所長として、あらゆる場面において女性も男性も対等な立場で意思決定できる社会を実現させる。

●学生へのアドバイス

どんな場所でも皆さんが活躍できる場は必ずある。何でもよいので、自分が興味あることにまずチャレンジしてみよう。

●男女共同参画社会を考える

人口の半分は女性であり、山形ないし日本の持続的発展には男女共同参画の視点が必要不可欠。身近なところからジェンダーに関する無意識の思い込みがないか、気にかけるべき。



❗ 家事・育児の両立のために、周囲の人との関係づくりで心掛けておけば良かったと思うことは？

A 家事・育児で忙しい時こそ、割り切って行動すること。公私混合の状態での仕事は周りに悪影響。

講義の振り返り

印象に残っているのは、市役所と言っても、異動によってさまざまな部署で、さまざまな分野に触れることができるということです。公務員の仕事は、画一的で流動性がないというイメージを抱いていたが、先生のご講話から、興味深い職業だな、と感じた。

少し前までは、就職や進学において男女間で格差があったことに戸惑いを覚えた。自分の将来を自分の意思だけでは決めきれない環境が、少しずつ良くなってきているのではないかと感じながらも、もっと男女平等な社会をつくっていったらいいなと思った。

結婚後の生活において、男性は手伝いをするという補助的な立場になりがち。一方女性はその分の負担が大きくなってしまおうから上手く分担できていないんだと気づくことができた。

今回の講演の後、ふいに以前母親に掃除を任された時のことを思い出した。自分なりにはしっかりやっていたつもりだったが、母からできていないと言われたときに、いつも通り自分の仕事なんだから、自分でやればいいじゃないかと無意識のうちに思った。今考えるとここにも女性(母親)は家事をやるものという偏見が無意識のうちにあったのかもしれない。家事に関する問題は男女共通なので、家庭で双方が理解し、解決できる関係を作っていきたい。

一概に男女格差をなくしたいと叫ぶだけでは、男女共同参画社会を実現することは難しいと思った。今後はいち山形県民として、積極的に男女共同参画社会推進運動にかかわっていかれたらと思う。

チャンスは誰にでも平等にある

10月18日(水) 14:40~16:10

講師

黒谷 玲子

山形大学学術研究院准教授(理工学研究科担当)

Profile

50歳代
千葉県出身

専門は分子生物学、細胞生物学など。大学院修了後、博士研究員、他大学の助教、本学テニュアトラック助教を経て2014年本学准教授。

●就職した動機と仕事の内容

主な仕事内容は山形大学での教育研究。就職の動機は研究の継続。独立した研究者としてのポジションを得て、自分が立案した研究を行いたいと思っていたところ、公募があったため、実力で勝負できると思い応募した。

●これまでの道のり

高校の時は医学部を目指していたが、理学部生物学科に入学。さらに、恩師から薦められ大学院進学。研究が面白くて没頭していた。この時の夢は、製薬メーカーで薬の開発・研究をしながら家庭を持つこと。就職氷河期になり研究分野での就職が叶わなかったが、研究を続けたくて博士課程に進学。その後アメリカで5年間研究。最初はUCSDで視床下部の研究を、最終的にはNIHで現在も行っている肺の研究を行った。日本に戻り、横浜市立大学の医学部で有機磁性化合物を用いたDDSの研究。その傍ら、現在の研究を継続した。2010年テニュアトラック助教として本学工学部へ、2014年准教授になり、今に至る。

●ワーク・ライフ・バランス

時間がないことや、睡眠時間が削られることが悩み。一方で、子供の成長を感じた時、研究成果が出た時には喜びを感じている。工夫としては、時間管理と集中を徹底すること。ONとOFFの切り替えや、隙間時間の活用を意識している。

●夢や目標

夢:今持っている疑問を解決してスッキリすること。研究している材料が医療分野で実用化されること。子供たちが夢を見つけ、叶えること。

目標:定年前までに現在行っている研究成果を発表すること。

●学生へのアドバイス

自分の人生。やりたいと思うことを見つけ、やりたいことをやってほしい。なりたいたいと思う人になってほしい。チャンスは誰にでも平等にあるので、掴んで生かすこと。

●男女共同参画社会を考える

高学歴の女性研究者が子供を持ってないなんてもったいないと思う。男女共同参画社会、ダイバーシティという言葉が、私たちが生活するうえで意識しなくてもいい世界になる未来を願っている。



① 物事が思うように進まない時、どのように気持ちを立て直すか。

A その時できることを精一杯やり続ける。結果が出なくてもとにかくやってみる。頑張る人を応援してくれる人はたくさんいる。

講義の振り返り

海外に研究をしに行った時の経験、そこで学んだ「チャンスは平等」や「チャンスはつかんで生かす」「やりたいことは貪欲にやったほうがいい」などの考え方を学ぶことが出来た。自分の進みたい道に進むため、出来ることからがむしゃらにやり、チャンスを逃さないようにしたい。

やりたいことをとことん突き詰めてきたことがすごく伝わって、自分が本当にやりたいことは何だろうと改めて考える機会になった。様々大変な経験をされているのにも関わらず、自分の夢に向かって努力し続ける姿勢がとても素敵で、私も周りのせいにせず追いつけ続けられるような目標を持ちたいと思った。家庭を持つことと研究者でいることのどちらかを選ぶ必要はないというお話も印象的だった。

今回の講義で、「チャンスは平等」「開き直ることも大切」「できることからやる」ことを学んだ。社会に出た際は思い通りにいかないことにも直面すると思うので、その際は今回学んだことを活かし、前に進みたい。

当時の時代背景や嫌な出来事をものともせず突き進んで、研究を続けていてかっこいいと思った。研究や生物の分野がとても好きなことが伝わってきた。チャンスは平等という言葉が印象に残っている。先生はそれを手繰り寄せる努力をしたのだろうと感じた。私もとにかく行動にうつしてみようと思う。

進んだ先で何をするか

10月25日(水) 14:40~16:10

講師 並河 英紀

山形大学学術研究院教授(理学部担当)

Profile

40歳代
島根県出身

専門は化学。自己組織化と呼ばれる現象について研究している。神戸大学、北海道大学を経て2011年に山形大学着任。大学院生時代にドイツに4か月留学。子供の小学校のPTA会長も務めている。

●就職した動機と仕事の内容

大学教員を目指したきっかけは、学部4年生で始めた卒業研究で研究にはまったことで、学生から現在まで研究活動をしている。最近は研究の時間が少しずつ減り、理学部長として大学経営について動向に応じて最適化を考えるのが主な仕事になっている。

●これまでの道のり

中高生時代は探究活動に興味なかったが、大学入学後は知識を身につける事を無意識に楽しみ始め、配属された研究室で研究活動にハマリ、没頭。栄養失調で入院したこともある。途中、ドイツ留学でワークライフバランスのカルチャーショックを受ける。大学院に進学した後も「研究を続けたい」の一心で院を中退し北海道大学の教員になる。北大ではそれまで全く知らなかった分野の研究をする。その後、博士号を取得、山形大学の教員とキャリアを重ね現在は山形大学理学部学部長を務めている。

●ワーク・ライフ・バランス

仕事はPC一つあればできる業務が多くあるおかげで、家でも仕事ができるようになり、プライベートと仕事とが混在して傍から見るとワークライフバランスが崩れているように見えるが、並河家としては納得している。家族で共有するには自然な流れの中で家庭内のルール決めが重要。

●夢や目標

若いころから「ゼロからイチを生む研究をする」というのを研究目標に掲げていたが、これは世界的に認知されるような研究を生むことに成功し、ある程度達成したので、これから先は研究の楽しさを若き研究者に伝えたい。

●学生へのアドバイス

何をするにも「遅い」ということはない。知識がないからやらないのではなくチャンスと興味があればまずやってみる。興味を持って楽しく進めていけば知識は後からいくらでもついてくる。学生時代は貴重な期間だからまずはやる、一歩踏み込んでみよう！

●男女共同参画社会を考える

社会を構成する全ての人々が自分の特性に応じて最大限の力を発揮できる社会を築くことが、強靭性と柔軟性を併せ持つとともに持続的な発展が可能な社会の基盤になるのではないかと。



📌 行き着いた先で素早く適応するコツ等はあるか。

📌 情報を早く集め、60%しか集められていなかったとしてもスタートする。例えその時興味がなくとも勉強をすれば興味を持てる。勉強あるのみ。

講義の振り返り

📌 今までの自分はどこへどのように進むのかということに意識が向いていたが、今回の講義で進んだ先で何をするかということへの意識が大きくなった。さらに、出来ない、やらない理由を探す前にまずやってみるという考え方を自分も取り入れていきたいと思った。

📌 講義の始めの頃は自分の将来像についてほしいこんな感じになるのだろうかというとても曖昧な考えしか無かったが、先生方の講義を聞いていくうちに、こんなことを想定していればある程度は上手く行きそうだなということが少し見えてきたと思う。自分の家庭とも照らし合わせて、先生方のアドバイスはとても参考になると思った。

📌 自分はあまり将来の事は考えずに動くタイプで、将来像等あまり考えた事がなかったが、講義でいろいろな方々の半生やキャリア形成のアドバイスを聞き、そういった事も考えるようになった。講義の内容を役立ててキャリア形成やワークライフバランスを考え、また、男女共同参画社会に向けて気を付け、これからを過ごしたい。

📌 講義を通して、物事の結末を変えるのはほかでもない自分自身なのだと思う。行き当たりばったりで始めたことも、自分がその場で下した決断を最善策だと考えることで、いい方向に向かうこともあると気づいた。私は逆に自分がやることについて考えすぎて疲れてしまったり、むしろ上手くいかないことも多いので、考えすぎないことというのも大切にしたい。

「好きなこと」をキャリアに

11月1日(水) 14:40~16:10

講師 **荒木 志伸**

山形大学学術研究院教授(学士課程基盤教育院担当)

Profile

50歳代
東京都出身

専門は考古学。お茶の水女子大学、國學院大學大学院修了、東北芸術工科大学、明治大学を経て、2011年山形大学に赴任。山形に来てからは山寺立石寺、出羽三山、松島瑞巖寺などで調査をしている。

●就職した動機と仕事の内容

小学4年生の時、発掘現場を直接見学する機会があり、考古学の仕事に就きたいと考えようになり今に至る。奈良・平安時代を専門とし、城柵という古代の役所や庶民の生活を研究。山形に来てからは、山寺立石寺を始めとする石塔の考古学的調査も行なっている。

●これまでの道のり

考古学の分野での行政職のいずれかに就ければ良いかと漠然と考えていた。両親が教員であったため、「教員には絶対にならない」と言っていた。また、両親は考古学の仕事に就くのは、大反対だった。大学時代は、授業をさぼり発掘現場ばかり行っていた。そんな「好きなこと」で出会った様々な分野の先生達との縁で、東北芸術工科大学に赴任。しかし、2008年に両親の急病で自己退職。期限付きの2度目の就活を経験。教育職の経験が忘れられず、就活した結果、2011年山形大学に赴任。

●ワーク・ライフ・バランス

夫婦間のなかでの家事分担や男女での意識のずれを感じることが多い。また、高齢の両親が共に遠隔地に住んでいて、今後どうするか悩んでいる。考古学関係の調査などで教え子が手伝ってくれ、自分の仕事が地域貢献につながっている手ごたえなど、最近になってやっと実感できるようになった。調査には様々な関係者の方々の協力なしではできないので、残りの人生はその恩返しをしたいと思っている。

●夢や目標

身近な文化財の歴史的価値を調査し伝えることで、その土地の魅力を発信、その地域の方々に元気にし、そこで生きていく勇気につながることを出来たらと考えている。

●学生へのアドバイス

課外活動やアルバイト、旅行での出会いといった人とのつながりはいつか自分を助けてくれるかもしれない。そして、どんなことでもムダな経験はない。経験しないうちは失敗ではない。自分だけで悩むのではなく周りの意見を聞き、最後は自分で決定する。

●男女共同参画社会を考える

夫婦間でそれぞれのキャリアや生活スタイルを確立して、うまく折り合いをつけて生活している。



❗好きなものを仕事するために向かっていく中で不安はありましたか？

A これで大丈夫なのかという不安はもちろんあったが、視点を広く持つことが大切だと思った。考古学に関する仕事が博物館の職員だけではないように少しでも好きな物に関わっている仕事を探してみると自分の向かうべき方向が見えてくる。

講義の振り返り

📌 「好きなことをとことんする。自分の好きなことを生かせるものは、意外に多くあり、ゆるく・広く・周りの助けを借り、キャリアにつなげる。」ところが印象に残った。先生の経験から、自分の興味関心のあることに積極的に取り組むことで、様々な人の出会いや縁が生まれ、人生の困った場面やキャリアの部分で助けになるのだと思う。

📌 講義で心に残ったことは、素晴らしい経歴を支えているのは、努力やつらい経験だということが分かった。また、好きなことと職業は結びつきにくいと考えがちだが、今回の講義を聞いて少し将来が見えてきたように思う。

📌 学生時代から様々な経験をされてきた中で、大変なことがあっても関わってきた人との縁や学んできた全てがその後の荒木先生のキャリアに繋がっていることから、好きなものに向かって行動したこと全てが自分の糧になると学ぶことができた。

📌 失敗を糧にするという旨のお話がきけて勉強になった。

📌 失敗に焦点を当てた時、落ち込むのではなく、多面的に見ることが大切だと気がつくことができた。物事がうまくいかないその時、自分を俯瞰してみることは難しくても、時がたってその時のことを見返したときに自分を肯定できれば良いと思う。これからは、失敗から見えてくるものにもよく目を向けるようにしていこうと思う。

仕事と家庭の充実のために

11月8日(水) 14:40~16:20

講師 山口 弘太郎

アイジー工業株式会社 研究開発部 商品開発第2チーム

Profile

20歳代
宮城県出身

鉄骨造の建物向けの外壁の開発を担当している。宮城野高校、山形大学物質生命化学科、山形大学院を経て2021年にアイジー工業に入社(現在3年目)。

●就職した動機と仕事の内容

地元で貢献したいという思いから宮城・山形の企業を中心に就職活動を行った。現在の会社を選んだ理由は①企業訪問の際に一緒に働くイメージを持てたこと ②福利厚生が整っていること ③総合職採用であることの3つ。現在は鉄骨造の非住宅向けの外壁(アイジーヴァンド)の設計・開発を担当している。

●これまでの道のり

山形大学物質生命化学科(現 理学部化学コース)を卒業し、山形大学院(白杵研究室)を修了。2021年4月にアイジー工業に入社。入社後1年間ですべての部署の研修を経験した。

●ワーク・ライフ・バランス

ワークライフバランスの充実をはかるために、研究開発部ではフレックスタイム制を導入し、仕事や個人の予定に合わせて就業時間を設定しメリハリのある働き方ができている。しかし急な案件が来た時などスケジュール管理が難しいときがある。仕事の充実のために挨拶や感謝の言葉など当たり前のことを行い、良好な人間関係を築く。プライベートな時間を充実させるために、家事は協力・分担しながら完璧を求めすぎないようにしている。休日にしっかりとリフレッシュすることで、生活全体にもメリハリが生まれ仕事の集中力向上にもつながっている。

●夢や目標

自分が企画・設計した商品をヒットさせるという夢に向かって「昨日の自分より1つ成長すること」を目標に日々業務に取り組んでいる。

●学生へのアドバイス

皆さんが今、過ごしている時間は取り戻すことのできないとても貴重なものです。勉強はもちろんのこと、バイト、サークル、ボランティアなどたくさんのご様な立場で経験を、視野を広げていってください。経験量の多さは人としての厚みにつながります。

●男女共同参画社会を考える

男性だから、女性だからではなく、一人ひとりが強みを生かしながら、苦手なところは補いながら、全員が活躍できる社会が実現されるとよいと思う。そのために、他者との違いを認め合い、共感することを意識して取り組んでいきたい。



❗ 就職先を考えるうえで大切にすべきだと考えることは何ですか。

A 家族が大事だと思い、宮城に帰りやすいところから選んだ。人生の軸となるものを考え、それを中心に就職先を選ぶことが大事。

講義の振り返り

📌 お話を聞いて印象的だったことは就活において自分の軸を持つことと、持っている軸が本当に譲れない軸なのかどうかを確認するためにあえてその軸から外れてみるということだ。

📌 経験の量が人としての厚みになっていくので、店に客としていたり、バイトとして働くなど多面的な立場に立つことが大切であるから、大学生の間に多く学び遊ぶことが大切ということが印象的だった。

📌 私は、興味のないことには挑戦をせず、選択肢として排除していると感じた。しかしこれからの選択肢を増やすためにも減らすためにも、多くの分野に挑戦しようと思った。

📌 ワークライフバランスを図るために、良好な人間関係を築くことや、自分へのご褒美を設けることは新しい視点だった。大学一年生だからこそできることでリフレッシュしながら頑張りたい。

📌 ワークライフバランスと聞くと、どうしても自分の生活態度を変えなければならないような印象を受ける。フレックスタイムのような、ある程度自分の生活を自分でコントロールできる制度があることを知って、自分が働く場所を決める際に参考にしたいと思った。

📌 印象的だったことは完璧を求めすぎないということである。私は無理だとわかっていてもできるだけ完璧にこなそうと躍起になってしまい、作業が遅れたり、生活の質が落ちることがあったので、共感できた。

自分の「好き」「なりたい」を貫くこと、挑戦すること

11月22日(水) 14:40~16:10

講師

佐々木 由佳

山形大学学術研究院准教授(農学部担当)

Profile

40歳代
宮城県出身

専門は栽培土壌学。持続的な水稻栽培のための水田土壌の肥沃度維持に関する研究を行っている。山形大学農学部にて博士課程まで在籍し、独立行政法人農業環境技術研究所の研究員を経て、2004年から山形大学に勤務。

●就職した動機と仕事の内容

大学・大学院での研究を継続できる仕事として大学教員の道を選んだ。栽培土壌分野で、水田土壌の肥沃度と水稻の生育の関係、持続的な水稻栽培のための肥培管理に関する研究を行っている。大学農場の水田管理に関わる仕事や水稻栽培に関する実習も多く担当する。

●これまでの道のり

中高生時代から理系科目が好きだったこと、将来は農家になりたいと思ったことから、大学は迷わず農学部を選んだ。農家になる夢は大学1、2年生であきらめたが、大学の実験や実習が楽しく、大学院に進学した。博士論文を取りまとめる頃には、わからないことや知りたいことがさらに増え、研究を続けたいと考えた。博士課程修了後は、実習補助員や非常勤講師として山形大学農学部にて在籍した後、独立行政法人農業環境技術研究所の研究員を半年ほど経験し、山形大学の教員となった。

●ワーク・ライフ・バランス

仕事に偏ったワーク・ライフ・バランスを続けてきているが、年齢を重ねるにつれて健康・体調管理が仕事に強く影響するようになったと感じる。

「隣の芝生は青い」とよくいわれるが、自分が今持っているものや幸せに目を向けて生きていく方が、ワーク・ライフどちらの観点から見ても生きやすい。

●夢や目標

今までお世話になった多くの稲作農家の方々に貢献できるような研究をし、成果を上げたい。教育では、博士課程の学生、留学生、社会人学生を主指導で担当する経験を増やしたい。

●学生へのアドバイス

失敗を恐れずに多くの経験を積んでほしい。思い切って挑戦することで、自信が付き、興味の幅が広がり、新しい仲間が増える。また、大学生は時間・体力・仲間に最もゆとりがある期間なので、在学中になにか1つでも専門性を身に付けてほしい。

●男女共同参画社会を考える

様々な能力や特性について男女差よりも個人差の方が大きいと感じる。各自の能力や特性を存分に活かせる社会のためには、多くの人が多様性を受け入れることが必要だ。



❗ 挑戦して良かったことや、今の自分に生きていけると思う経験は？

A 大学1年の夏、インドネシアで行われた1~2週間の研修に参加したこと。不安はあったが、思い切って参加を決めたことでとても良い経験ができた。

講義の振り返り

- 📖 自分が挑戦したいことには積極的に取り組み、他人の境遇に振り回されずに進んでいくことの大切さを学んだ。
- 📖 不安があっても、案外何とかなるという気持ちを持って挑戦してみて悪いことは実はあまりないのかもしれないと考えが変わった。
- 📖 他人を見て気付いた羨ましさを自分の向上心に変えることが自分を変えられるきっかけになり得ると思った。
- 📖 「目指したいものがあるなら目指せばいい」という言葉が自分の痛いところを突かれたようでとても印象に残った。
- 📖 他人の幸せを見るだけではなく自分の今も幸せだと気付くことで、自分の成長を感じたり人生を豊かに感じたりすることができるようになるのではないかと思った。
- 📖 良いチャンスが来ないから行動しない、ではなく、自分から進んでチャンスを掴みに行くことで、その経験をより良いものにできるのだと気付いた。
- 📖 先生は大学1年生で初めて海外を経験したとおっしゃっていたが、不安もある中で積極的に挑戦していくというポジティブな姿勢に憧れを持った。
- 📖 関わる形は変わっていても、自分が昔から好きだったことを仕事にして楽しみ続けられているのが素敵だなと感じた。
- 📖 仕事と私生活を分けて楽しむ考え方ではなく、仕事に重きを置いて日々を楽しむライフスタイルを1つの選択肢として知ることができた。

助産学でのキャリア形成と良いワークライフバランス

11月29日(水) 14:40~16:10

講師

手塚 美春

山形大学学術研究院助教(医学部看護学科担当)

Profile

30歳代
山形県出身

母性、助産学を専門とし、母子保健に関する研究や企業に向けた子育て支援のセミナーに取り組む。病院助産師、市の保健師を経て現職に至る。夫の協力と職場の支援が子育ての糧。

●就職した動機と仕事の内容

大学卒業後は助産師として働き新たな命が生まれ、家族の大切な時期を支えることにやりがいを感じたが、地域での母子や家族に関わりたいと思い市の保健師になる。市の保健師になり様々な経験を通じたあと大学時代の恩師の勧めにより教員の道を歩む。

●これまでの道のり

助産師を志したのは高校生の時。山形の場所や人が好きだったこともあり、県外へは行かず、山形大学医学部看護学科に入学。看護師、保健師の資格を取得する。さらに助産学校に入学し助産師の資格を取得する。助産師、保健師時代は人と関わることが好きで、一生懸命働いていた。しかし、「これは仕方ない」と割り切ることが増え、そのままでもいいのか悩んだ。そして、客観的に物事を把握し解決する能力を身につけるために山形大学大学院修士課程に進学した。博士課程にも進学予定である。

●ワーク・ライフ・バランス

子供が生まれる前は自分のペースで生活することができたが、子供が生まれてからは子供の時間を大切にしたいという気持ちともう少し仕事をしたい気持ちがあり複雑であった。しかし夫の協力とスケジュールの管理によって時間をうまく使えるようになり、子育てを通して周りに頼るといふことの重要性を学ぶことができた。

●夢や目標

研究者、教育者としても未熟なので、学生とともに学び続けたいと考えている。また、子育て世代を応援するような活動に取り組み、社会に貢献していきたい。

●学生へのアドバイス

大学生時代は学ぶことも大事であるが、国内旅行に行ってみることや海外に行ってみること、語学を身につけたり、異文化に触れたりなど、さまざまなモノに触れることが大事である。時間は有限であるので大切に使うことを気づける人は強い。

●男女共同参画社会を考える

妊娠・出産できるのは女性だけであるが、子育ても全てとなると仕事との両立も困難になる。子育てを家族だけでなく、社会で支える意識が重要と考える。



Q 転職するとなった時どのようにして決めましたか？

A 2~3週間ほど夫と相談した結果、やりたい仕事なら挑戦してみた方がよくなり、後悔しない選択をした。

講義の振り返り

- 人生計画を頭の中でたてても、全く予想しないタイミングでこれからを左右する大きな選択の決断を強いられることがあったため自分の描いた計画通りには絶対にはかないものだと感じた。
- 周りの人たちに迷惑だからと思いつ自分で問題を抱え込むのではなく、人に頼ることで作業の効率が高くなることや、信頼関係をより築けることができる大切さを知った。
- 自分を磨くため社会人になってから進学をしようとする向上心を知り、自分も社会人になって仕事だけでなく、勉強にも取り組む姿勢を持ちたいと思えるようになり参考になった。
- 身近にある自分が使える制度はしっかりとその対象となる人を助けるために設けられているので、自分には関係ないと思わずに、その内容を見て積極的に利用した方がいいと学んだ。
- 子育てと仕事の両立をしていくのはとても大変なことであるため、それをうまくやっていくためには、今抱えている問題を把握し解決する方法を考える力が大切なのだと学んだ。
- 子供が生まれると必然的に自分の時間が減ることから、あらかじめ先のスケジュールを予測するようになることで時間を上手に使えるようになり、何か不測の事態になってもすぐに調整して対応できるようになると学んだため、前もった計画性を持つことが大切だと感じた。

学校現場以外からの教育支援

12月6日(水) 14:40~16:10

講師 鈴木 貴子

山形大学学術研究院准教授(教育実践研究科担当)

Profile

40歳代
山形県出身

専門は学校経営。県内小中学校の実態を把握し、学校経営と学校研究の一体的推進についての研究を行っている。(株)ベネッセコーポレーション、県内中学校教員、村山教育事務所指導主事を経て、2022年に山形大学へ赴任。趣味はアウトドア。

●就職した動機と仕事の内容

大学院修了後、ベネッセコーポレーションでの仕事を通して多くの子どもたちに出会い、その成長の過程に直接関わりたいという気持ちが強くなり、20代後半から山形県内中学校の国語教師として13年間勤務。2022年より山形大学にて、学校経営と学校研究の一体的推進や学校の総合力を高めるための組織力と個人力の強化等について研究を行う。

●これまでの道のり

中学時代の恩師の影響で、教師という職業に憧れをもつようになり、大学では教育について学び、中学校での教育実習を経験した。大学3年生の後半から本当にやりたいことは何かを悩むようになり、自分自身と向き合うために大学院に進学した。より広い視野で教育に携わりたいという気持ちから、自己実現が可能な企業としてベネッセを選択した。学校現場ではないところで教育に携わり、様々な人とのネットワークを構築できたことは、大きな財産となった。

●ワーク・ライフ・バランス

20代の時から現在に至るまで、とにかく仕事が好きでストレスを感じにくい体質であるため、メリハリをつけることを心がけている。子育ては子供の成長に伴い夫の協力も増え、お互いの得意分野を担当する形に変化した。「自分ができないことや苦手なことは周囲の力を借りる」ことにしているので、家族との時間はもちろん、ひとり時間や友人との時間が、心身ともに元気に過ごす源になっている。

●夢や目標

歳を重ねるほど、柔軟な考えができる人でありたい。自分のしたいことの気持ちにまっすぐに生きることは、周りの人にもよい影響を与えられるかもしれない…と思っている。

●学生へのアドバイス

じっくり考えることができる時間があることは、学生の最大の特権だと思う。自分の心に耳を傾けて、自分との対話を重ねることで、あなたのレジリエンスは確実に育まれる。

●男女共同参画社会を考える

世の中の意識は確実に変わってきているが、アンコンシャスバイアスの根深さは否めない。表層的ダイバーシティだけでなく、深層的ダイバーシティにも目を向けることを大事にしたい。



❗ 私たちがこれから気を付けるべきことは何かありますか？

A 自分を理解する際に、日本人の気質から自己肯定感が低くなることもあると思うが、自分のことを簡単に卑下せず、肯定的な視点からも自分を理解することを大切にしてほしい。

講義の振り返り

- 📌 民間企業から教育に携わるキャリアを積んだことはとても価値のあることだと思った。
- 📌 民間からの教育支援にとどまらず、自身が教職について実際に経験を積むことは現場の考えをくみ取るのにとても役立つと思った。
- 📌 就職活動において、自身をアピールする際に外在的な価値で自己分析して良いところだけを示すのではなく、内在的な価値で自己分析し、自分の強みだけでなく、自分の弱さも見せることが大切だという言葉に強い共感を受けた。自分が就職活動する時には、今回の内容を思い出して、自分の弱みを恐れずにしていきたい。
- 📌 柔軟な考えを持つことを心掛けており、そのためにも様々な立場となって経験を積み、様々な人とのネットワークを構築しているキャリアに、自分もそのようなキャリアを積んでみたいと思った。
- 📌 やりたいことを後回しにしない、できない理由であきらめなくて自分の気持ちに素直になって行動することが大切だと思った。
- 📌 講義でのグループ活動では、自分とは異なる意見と触れることができ、新鮮に感じた。
- 📌 「自分より経験が少ない人の話も聞く」という点が印象に残った。困ったときは目上の人や目標としている人から話を聞くと思ってしまいがちだったので、とても勉強になった。
- 📌 人の力を借りることは決してネガティブなことではなく、むしろメリットばかりだという視点を知ることができた。これからは気負いすぎずに周りの人に協力を仰げようと感じた。

差別について理解し、人の痛みをわかる人に

12月13日(水) 14:40~16:10

講師

中村 文子

山形大学学術研究院准教授(人文社会科学部担当)

Profile

50歳代
宮城県出身

国際関係論を専門としている。特に人権、人身売買の問題を扱っている。東北大学を経て、山形大学に赴任。

●就職した動機と仕事の内容

動機: 高校生のときのアメリカでの経験が大きい。アジア人や黒人への人種差別を実際に目の当たりにしたりした。本人の努力や能力とは関係のないところで評価されてしまうことに違和感を感じるようになった。

内容: 国際関係論、とくに国際人権についての研究と教育

●これまでの道のり

中学までは狭い世界で美術や音楽を楽しみ、ある意味では温室の中にいた。高校ではアメリカで生活していく中で、視野が一気に広がり、様々な社会問題について気付かされた。のんびりした大学、大学院生活を過ごし、大学で研究員などを経て現在に至る。しかし、もともと研究者になろうと思っていたわけではなかった。なりたいたものが転々とした後に、だいぶ後になって大学の教員に落ち着いた。

●ワーク・ライフ・バランス

研究者という仕事は、オンオフの切り替えがしにくい。日常生活でも自分の研究分野と結び付けて考えることが習慣になっているし、常に様々な媒体からニュースや情報を得るようにしている。

●夢や目標

戦争や貧困など様々なことが原因で困っている人々が世の中からいなくなってほしい。そのためにひび研鑽を積み、学生たちとそのアイデアをやり取りしたい。

●学生へのアドバイス

- ・今後、様々な難しい選択に直面し、妥協もたくさん経験するかもしれないが、信念と臨機応変に状況に対応していく力があれば、なんとかやっていける。
- ・経験値が高いほうが、何かあっても「どうにかなる」と考えられるようになり自信になる。
- ・多種多様な人々で成り立っている世の中で、一部の人間にだけ都合のいい社会は、ほかの誰かにとっては抑圧的な社会かもしれない。このことを意識し、どうしたら皆にとって生きやすい社会になるのかを考えることを続けて欲しい。

●男女共同参画社会を考える

他人の痛みを考えられる人になることが男女共同参画社会では大事になってくる。



Q ご自分がアメリカで差別を経験されたということですが、自分が差別してしまったと思うことはありませんか？

A 男性も女性も同じように扱うように気をつけている。人種に関しては高校の頃から様々な人々と接しているので、人種で人を区切る感覚はない。

講義の振り返り

先生は学生時代に、やりたいことを求めて大学や大学院に進学していたが、目標を持つことは、とても素晴らしいと感じた。

自分自身も知らず知らずのうちに、人種差別を行ったり、海外の人に対して偏見を持ったりしているのではないかと思った。そのため今後は気を付けていきたいと思った。

高校時代に海外に留学し、広い視野で人種別について考えられていたので、海外を知るといってもワークライフバランスや、自分の研究の充実につながると考えた。

やはり海外を見るということは自分の価値観を形成するうえで大きな影響を及ぼすのだと感じた。幅広い知識のある人間になるためには、自分自身が自信のない分野にも視野を広げていくことはとても重要であると感じた。

「常に自分で考えて行動する」ということがとても印象に残っている。それは「他の人の意見を聞かない」という意味ではなく他の人の意見を聞いたうえでそのまま信じることなくよく考え、判断するという意味だと思う。最近のSNSなどでは利用者の関心が高そうなコンテンツを多く表示する仕組みがあるが、それは便利な反面、自分と似た意見が集まりやすいということでもある。最善の判断ができるようになるべく様々な意見を取り込んだうえでよく考えて行動したい。

山形大学男女共同参画基本計画(第2次)の施行

山形大学は、令和2年4月に山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を施行しました。第2次基本計画では、令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画とダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策を定めています。女性教員比率や女性管理職比率に関するより高い目標を掲げ、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。また、「多様な性に関するガイドライン」を策定し、研究・仕事と家庭生活の両立支援制度の充実を図りました。今後も、ダイバーシティを推進するため、地域や県内外の大学等とネットワークを拡大していきます。



探究学習で学ぶキャリア形成

【授業名】

山形大学 基盤共通教育

「キャリア形成とワークライフバランス (山形から考える)」

【授業の目的】

- ①ワークライフバランスについて考え、自分のキャリア・ビジョンを描く。
- ②男女共同参画社会を理解し、課題を考える。
- ③新聞学習で社会人基礎力を身につける。

【授業の計画】

- いろいろな分野のゲスト講師による貴重な講義。
- 講師への事前質問や進行などを学生が担当。
- グループごとに課題探究学習を行う。
- 新聞切抜きレポートに取り組む。
- 自分の考えを発表する。
- キャンパス保育所の見学、地域との交流。

男女共同参画とは

「男女共同参画社会基本法」

(平成十一年六月二十三日法律第七十八号)

第一章総則(目的) 第一条

- ・男女の人権の尊重
- ・社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現する緊要性
- ・基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務
- ・施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」の理念に基づき、男女共同参画のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画基本計画」(平成22年)を策定し、男女共同参画を推進してきました。令和2年度から第2次基本計画に従って、さらに充実した取組を進めていきます。

性別にかかわらずに、すべての人が個性と能力を発揮できる世の中がダイバーシティ社会です。我が国では男女共同参画基本計画や科学技術基本計画等の下、男女共同参画や教育分野におけるダイバーシティ推進を図っています。山形大学は平成27年度に文部科学省のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に採択され、米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センターと連携し、ダイバーシティ研究環境の実現に取り組んできました。

この「キャリア形成とワークライフバランス」の授業は、男女共同参画を担う次世代を応援するため、ダイバーシティ推進室が担当しています。

令和6年3月発行

発行 山形大学ダイバーシティ推進室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL 023-628-4937

Mail yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

編集 副室長 柿崎悦子